価値創造

Philosophy

基本理念 …… 14
長期ビジョン …… 15
東海カーボンのマテリアリティ …… 16
価値創造プロセス …… 17
経営資源と強み …… 18
価値創造のあゆみ …… 19

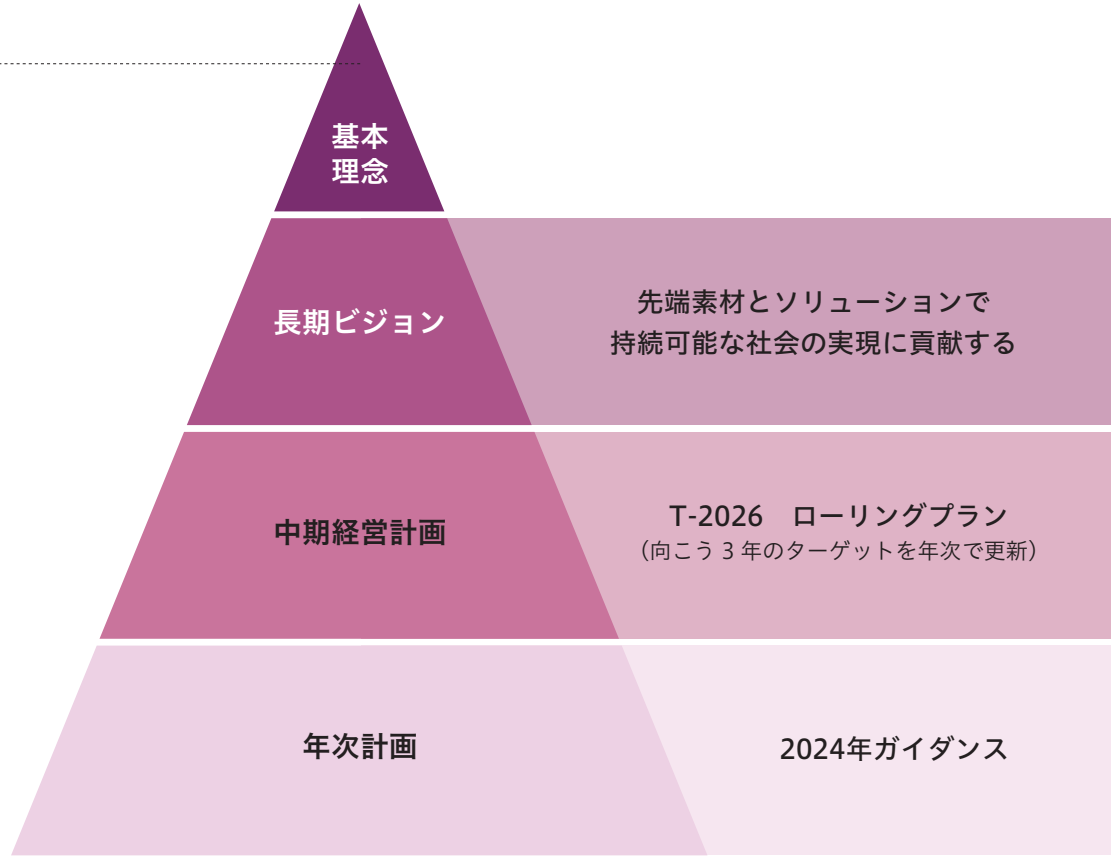
Corporate philosophy

信頼の絆

鉄鋼、アルミ、自動車、半導体などライフラインになくてはならない部材を、品質を高めながら提供してきた100年以上の歴史が「信頼の絆」を醸成しました。

お客様・株主・お取引先・従業員・社会といったステークホルダーの皆様は、当社が企業活動を通じ持続可能な社会の実現に貢献していくために、欠くことのできないパートナーです。ステークホルダーの皆様との共栄共存は当社の切なる願いであり、皆様とともに新しい価値を生み出す共創のカギはお互いの信頼関係と考えます。

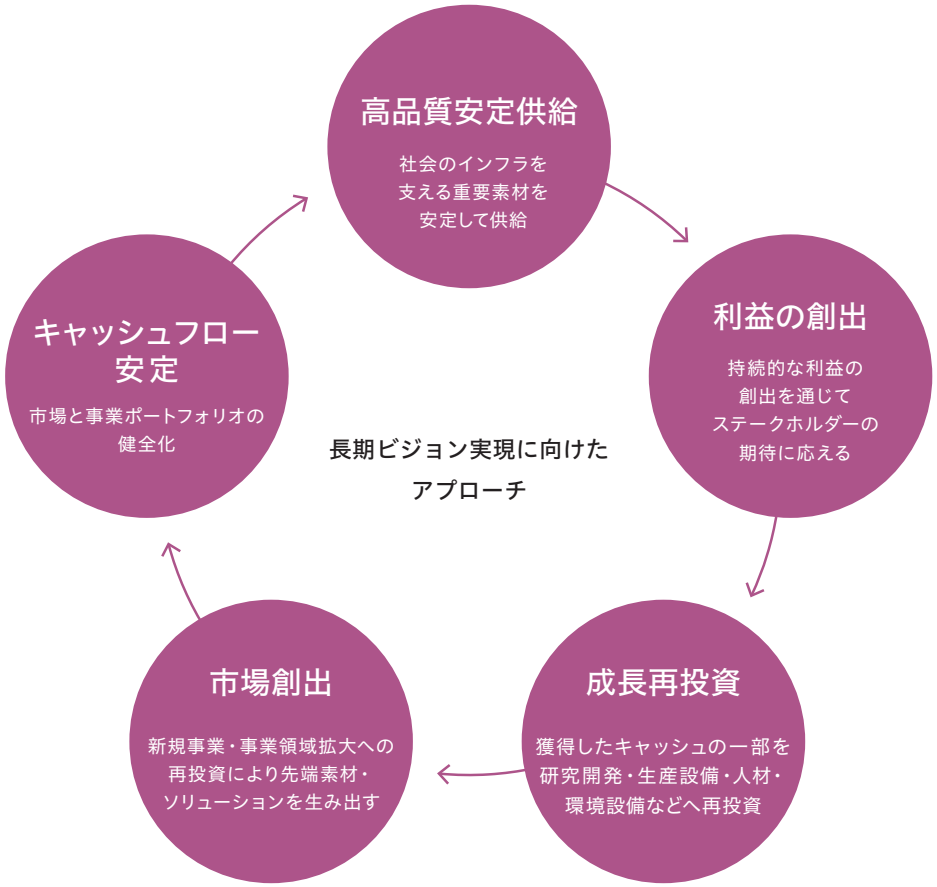
それは、技術やソリューションといった直接的なものであったり、目には見えない高品質や安定供給、そして友好的に成立したM&Aとその後の統合であったり、さまざまな場面で私たちを導いてくれています。「東海カーボンとならうまくやっていける」と感じていただけることは、私たちの大きな喜びです。



長期ビジョン

先端素材とソリューションで持続可能な社会の実現に貢献する

「先端素材とソリューションで持続可能な社会の実現に貢献する」
――当社の2030年に向けた長期ビジョンです。
喫緊の対応が求められるカーボンニュートラルの流れの中、
新たな事業領域にも果敢に挑戦する覚悟を示すとともに、
「持続可能な社会の実現への貢献」を当社の存在意義として明確化したものです。



Materiality

東海カーボンのマテリアリティ

東海カーボンは、ステークホルダーとの共創を通じて、「先端素材とソリューションで持続可能な社会の実現に貢献する」長期ビジョンをありたい姿として掲げています。社会にとっての重要課題と当社にとっての重要課題の2軸より検討を進め、マテリアリティ（重要課題）を特定しました。各マテリアリティに真摯に向き合い、持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、取り組み状況について適切に開示しています。

マテリアリティの特定プロセス

当社グループとステークホルダー双方の視点から課題を抽出

↓

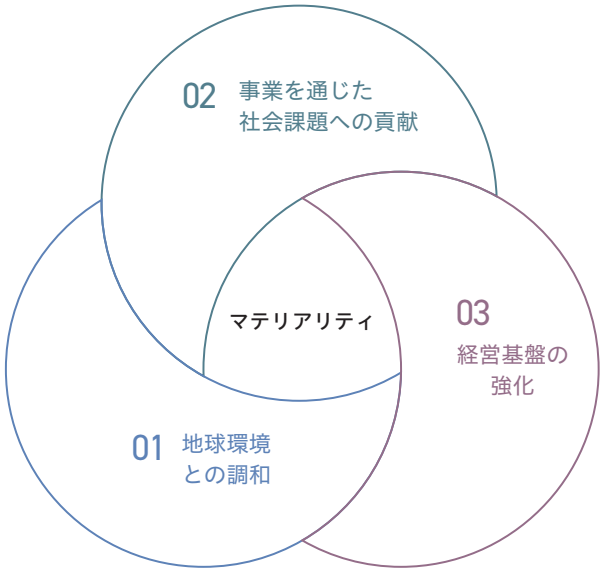
抽出した課題の重要性を評価

↓

外部有識者を交え、社長を委員長とするサステナビリティ推進委員会にて議論

↓

取締役会により決定



01

- 環境負荷低減
- 循環型社会の実現

自社 / 社会へのインパクト

- 気候変動リスク低減、カーボンニュートラル社会への貢献
- 研究開発、製品を通じた環境負荷低減
  （黒鉛電極：鉄鋼生産時 CO_2排出量削減に貢献）
- 資源枯渇抑制
- 自然生態系保全
- 気候変動リスクによる事業への影響抑制
- 新たな事業機会創出による売上拡大
- 環境規制厳格化への対応
- 原材料、エネルギー枯渇による操業低下リスク低減

02

- 技術革新への挑戦
- 安全・安心な製品の供給
- サプライチェーンマネジメント
- 人権の尊重
- コミュニティへの貢献

自社 / 社会へのインパクト

- 研究開発、製品を通じた産業発展への貢献
  （CB: 自動車の性能と安全性を支える、FC: 半導体産業の高度化を支える、S&L: アルミ産業発展を支える）
- 多様性のある社会の実現
- 地域の雇用創出
- 革新技術や新製品による売上増加
- 人権侵害等の不祥事抑制
- サプライヤーとの良好なリレーション構築

03

- コーポレートガバナンスの強化
- コンプライアンスの徹底
- 多様な人材の確保
- 労働安全衛生の推進

自社 / 社会へのインパクト

- 持続可能な社会の実現に貢献する人材の育成
- 不祥事リスク抑制
- 従業員の健康、安全、基本的生活水準の確保
- 働きやすく働きがいのある職場環境により従業員エンゲージメント向上

価値創造プロセス

01 INPUT
持続的企業成長を見据えた経営資本の充実と投入

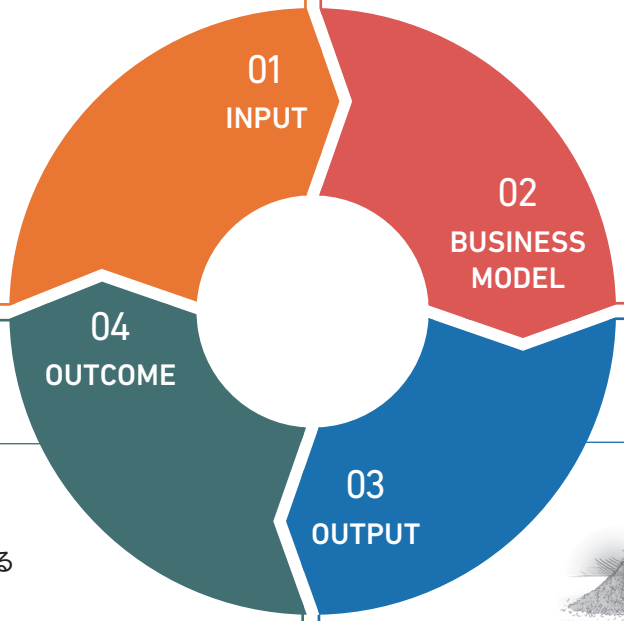
＊2023年12月末時点
格付は2024年5月末時点

製造資本
製造拠点 **36**
熱処理設備能力 **237** 千トン

知的資本
特許 **84** 件
研究開発費 **36** 億円

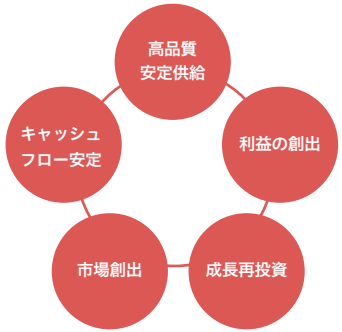
人的資本
従業員数（連結）**4,427** 人
外国人従業員比率 **70** %

財務資本
自己資本比率 **50.7** %
ネットD/Eレシオ **0.2** 倍
格付 格付投資情報センター（R&I） **A**
日本格付研究所（JCR） **A+**



BUSINESS MODEL 02
高品質 / 安定供給

高品質な製品を時代のニーズに合わせて
安定的に創出し続けていくことが私たちの使命です



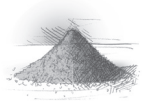
04 OUTCOME
事業を通して環境・社会価値を創出

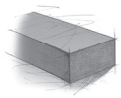
2030年に向けたビジョン
先端素材とソリューションで持続可能な社会実現に貢献する

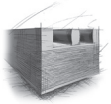
- **CO_2排出ネットゼロへの貢献**
  2030 年 25% 削減、2050 年ネットゼロ目標
- **生活の安全性・利便性向上**
  タイヤ、IoT、AI 機器
- **産業・社会インフラの発展**
  鉄、車、EV、半導体
- **省エネルギー・CO_2抑制**
  黒鉛電極、ファインカーボン
- **循環型社会の発展**
  鉄リサイクル、カーボンリサイクル
  研究への貢献

OUTPUT 03
優位性の高い商品・サービス

事業セグメント

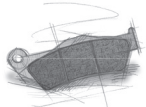

カーボンブラック事業


ファインカーボン事業


スメルティング&
ライニング事業

黒鉛電極事業

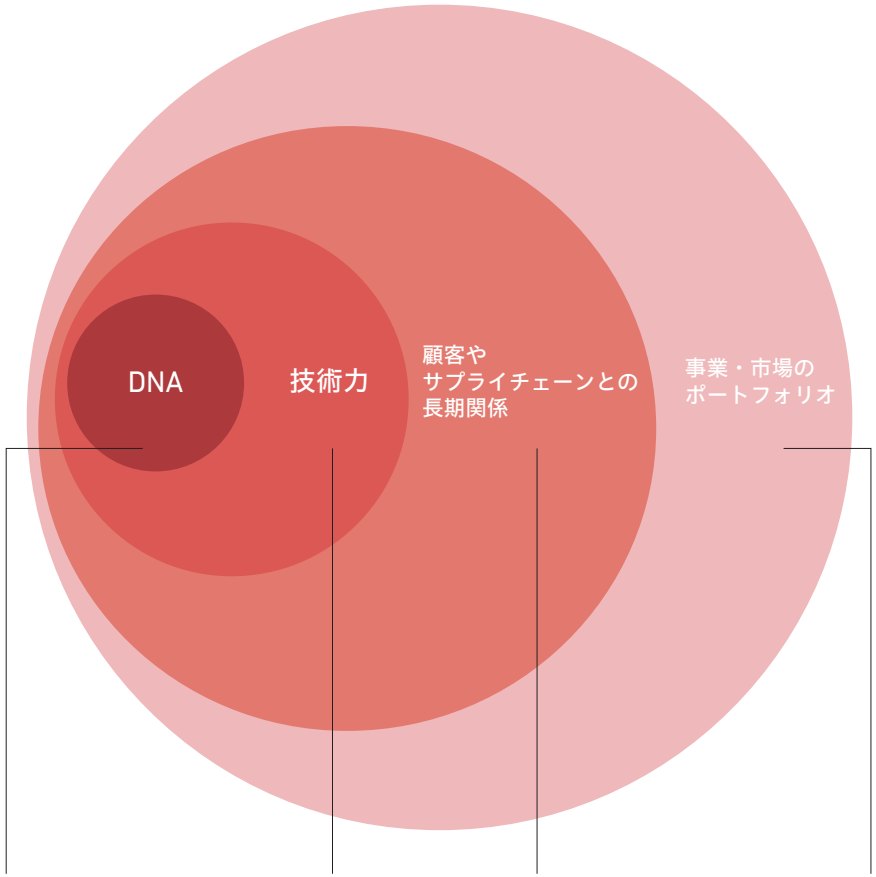
工業炉および
関連製品事業


その他事業
（摩擦材・負極材等）

Multilayered Strength

100年以上の歴史の中で培ってきた経営資源

創業時より社会の課題に果敢に挑戦し、ひたむきにモノづくりに向き合ってきたDNA。黒鉛電極での創業、日本で初めてのカーボンブラック工業化、その後のファインカーボン事業の立ち上げなど、多様な事業を持つにいたる過程で、顧客と向き合い、原材料メーカーと協力し、M&A 等で獲得した他社技術を取り込むなかで、東海カーボンのコア技術は磨かれ信頼が築かれ、そうした技術的知見の蓄積がまた次世代の素材を生み出す原動力となっています。グローバルに拡がる東海カーボンの製造拠点で製造・開発を進めることによって地産地消型ニーズをとらえつつ地域リスク分散に繋がっています。市場が拡がることにより、一つ一つの事業も強くなり、こうしたいくつものレイヤーの重なりと厚みが私たちの経営資源となっています。



信頼の絆

当社の歴史は、資源の有効利用と国や地域への貢献から始まりました。

ニーズに応え、超えていく

お客様の課題解決に向け共創することで、技術が磨かれ、新しい素材や商品の開発へと発展しました。

高品質を安定的に

長年にわたり当社の製品が広くお客様に使い続けられている理由の一つには、その高い品質と、安定供給体制への信頼があります。

リスクの分散化、バランス化

私たちの製品は、産業の土台を支えるものであり、そのためそれぞれの産業の市場動向の影響を大きく受けます。事業ポートフォリオの多様化・健全化は、企業全体としてのレジリエンス向上のためには不可欠のテーマです。

価値創造のあゆみ

日本におけるカーボンの歴史は、
東海カーボンとともに始まりました。

起源

1935-1989 事業基盤確立の時代

1918

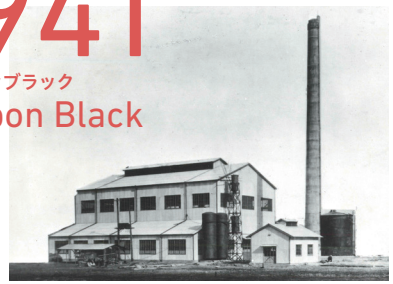
黒鉛電極
Graphite Electrode

時代のニーズや課題、その先を見すえた創業

製鉄が国家的事業と位置づけられ、電気炉による製鉄製鋼事業の拡張新設が進められる中、当時の課題として直面していたのが「良質な製鋼用電極の自給」であった。創業者・寒川恒貞は、品質・物量ともに不十分であった黒鉛電極の品質向上と安定供給こそが、電気製鋼事業の発展に不可欠と考えた。同時に、炭素製品の需要業界である電気製鋼、電気化学工業、電気機械工業などの発展も予測。さらに、中部地方の過剰電力の消化対策という課題の解決まで、広い視野を持って計画された東海電極製造株式会社の創立は、株式の募集もたちまち満額に達するなど、大きな注目を集めた。

1941

カーボンブラック
Carbon Black



日本で初めてカーボンブラックの製造を開始

黒鉛電極の原料用ピッチコークスを製造する際の副産物であるピッチオイルを有効利用するために、九州若松工場において日本で初めてとなるカーボンブラックの製造をスタート。

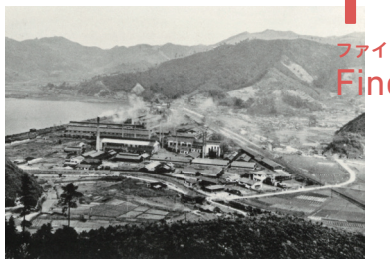
1987

ニューヨークに現地法人設立

海外における営業活動強化のため、カーボンメーカーとしては早くからグローバル化に対応。ファインカーボン事業においては、MWI社との合弁締結のきっかけとなるなど今日の東海カーボンのグローバル展開の礎となった。

1951

ファインカーボン
Fine Carbon



黒鉛電極製造ノウハウを横展開

最先端セラミックス製品部材提供のため、主に半導体市場向けに電極製造技術を応用。“第三の柱”として育成すべく、1986年より田ノ浦工場をファインカーボン専用工場とした。

工業炉および関連製品
Industrial Furnace

高温処理技術を応用展開

SiC発熱体（現エレマ発熱体）を川下展開し、工業炉、抵抗器をポートフォリオに加える。

1990-2011 国際化の時代

1990-2000

Thai Carbon Product設立
(現Thai Tokai Carbon Product)

日系タイヤメーカーのアジア進出に呼応し、カーボンブラックのタイ製造拠点へ資本参加。2000年には経営権を取得(2017年に完全子会社化)。単一工場ではグループ最大の生産能力を有する工場へ発展。

2005

黒鉛電極初の海外製造拠点

電極事業初の海外製造拠点獲得。ドイツトップシェアのERFT CARBON(現Tokai ERFTCARBON)買収。欧州でのプレゼンスを高める。

1996

ファインカーボンの韓国拠点合弁

Tokai Carbon KoreaをKC Tech他との合弁で設立(当社50%出資)。

米国にSiCコーティング設備投資

半導体メーカーの集積する米国にて、SiCコーティング事業を展開(現在のTokai Carbon USA)。

2012- 構造改革・成長の時代

2019

スメルティング & ライニング
Smelting &Lining

Tokai Cobex GmbH を買収し、スメルティング&ライニング事業をポートフォリオに追加。

2023 売上高3640億円に到達

2020 Tokai Carbon Savoie 買収でスメルティング&ライニング事業拡大

2018 ファインカーボンのTokai Carbon Korea 連結子会社化カーボンブラックのアメリカ拠点獲得

2017 黒鉛電極のアメリカ拠点獲得

2016 構造改革